

## ホロライブ セタデートボイス2024 エリザベス・ローズ・ブラッドフレイム

わあ、壮観だな。

これが日本の七夕のお祭りか.....初めて来たけれど、思っていたよりもずっと賑やかで、ずっと楽しそうな雰囲気じゃないか。

たくさんの屋台が出ているし、素敵な音楽は流れているし.....それに何より、みんな笑顔だ。

ふふ、きみとわたしの初デートの場所としてふさわしいんじゃないかな？

それじゃあ行こうか。

やはりお祭りだけあって、みんな浴衣を着ているようだね。

たくさん種類があってとても華やかだ。

え、わたしの浴衣姿も見てみたかった？

そうか、それならわたしも着てくればよかったかな。——いや、それは来年の楽しみにとっておこうか。

ん、だって来年もいっしょに来るだろう？ だから別に焦ることもないと思ったんだ。

その時にはきっと選び抜いた最高の浴衣を見せることを約束するよ。

ほら、あっちに面白そうな屋台がある。行ってみよう。

ふふ、色々な屋台を回れて楽しかったな。

特にベビークラスターといったか、あれが小さなホットケーキのような味で、甘すぎずとてもおいしかった。

見た目もとてもかわいらしかったしね。

機会があればあれはまた食べてみたいな。あとは——

ん、あれは.....

流れ星だ。きれいだな.....

天の川を横切るように流れていて.....まるで何かを導いているようにも見える。

.....

星というのは、いわば大きな炎の玉.....

わたしもあの流れ星のように、`ジヤスティス`のみんなを導いていける灯火になればいいと思っているんだ。

まだまだ至らないところばかりだけれど.....

だけどこの胸の青い炎が燃え続ける限りは、きっと。

きみには、一番傍でそんなわたしのことを見せてもらえたらうれしいな。

うん、それこそ織姫のことを見守る彦星みたいに。

きみは織姫と彦星の話は知っているかな？

神様によって離ればなれにされてしまった、恋人同士である織姫と彦星が、一年に一度だけ願いを叶えてもらい、天の川を渡って再会するというものだ。

きっと今頃、あの天の川のほとりで二人だけの時間を楽しんでいるのだと思うけれど.....

そんな風に、たとえ一年に一度でも特別なだれかが隣にいてくれるというのは、とても素晴らしいことだと思うんだ。

今こうしてきみがわたしの隣にいてくれるようにね。

.....

もう少しだけ.....このままいっしょに天の川を見てくれるかな。

——ありがとう、今日はとても楽しかった。

きみといっしょにお祭りを回って、流れ星を見て、織姫と彦星の話をして.....

日常にはないかけがえのない時間で、燃え立つ炎のように胸が躍った。

うん、これ以上ないくらいに満足だよ。

それじゃあそろそろ帰ろうか——

え、わたしには、織姫と彦星のように、叶えたい願い事はないのかって？

.....

.....そうだね、わたしの願い事は、『消えない炎のように、いつかきみがわたしのことを想っ

てくれるようになりますように』かな。  
いや、何でもない。気にしないでくれ。  
それよりも、せっかくの初デートなのだから、やっぱり最後はこれだと思っただ。  
うん、メロンソーダ。さっき屋台で買っておいた。  
その、よかったら二人でいっしょに飲まないか？ 今日の記念に。  
それが今のわたしのお願いかもしれないな。

——きみと初デートができて、とても嬉しかったよ。  
——これからもよろしく頼む。きみのことは……心から信頼しているから。

※一部またはすべての音声とテキストファイルの無断複写・無断複製・無断転載を固く禁じます  
※タレントのアドリブにより、台本と実際の音声と異なる場合がありますこと予めご了承ください。  
© 2016 COVER Corp. NOT FOR SALE